

■定格総荷重表注意事項

●アウトリガ使用時

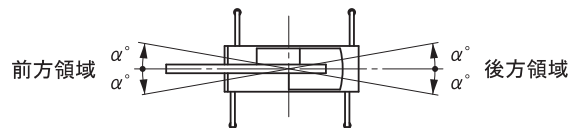
1. 定格総荷重表は水平堅土上において機体を水平に設置した状態での保証できる最大荷重を示しており、ブーム作業時は主フックとつり具、ジブ作業時は補フックとつり具の質量を含んだ値です。

【13t フック (質量90kg)、1.8t フック (質量25kg)】

□ 部分は機械の強度によって、他は機体の安定度によって定められています。

2. 作業半径はブーム、ジブのたわみを含んだ実際の値にもとづいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
3. ジブの作業半径は 24.0m ブームにジブを装着して作業を行う場合の値です。
その他のブーム長さでのジブ作業はブーム角度だけを基準として行ってください。
4. アウトリガ最縮小張出では、ジブ作業を行わないでください。
5. アウトリガ張出状態によって側方領域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。

また、前方、後方領域でのつり上性能はアウトリガ最大張出の定格総荷重表でそれぞれ作業を行ってください。



アウトリガ張出状態	中間張出(4.3m)	中間張出(3.7m)	中間張出(2.7m)	最縮小張出
領域 α°	25	25	15	3

6. ルースターシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりブームに取付けられているフックその他のつり具の質量を差引いた値とし、かつ限度を 1,800kg とします。
【ルースターシーブ使用フック：1.8t フック (質量25kg) 巻掛本数1】
7. ブーム長さ、ブーム角度、作業半径、およびジブ角度が規定の値をこえる場合にはその規定の値と、次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重を目安として作業を行ってください。
8. ジブを装着したままでブーム作業を行う場合の定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりフックその他のつり具等の質量の他に 600kg を差引いた値とし、かつ上限を5t とします。
なおジブを装着したままでのルースターシーブ、およびアウトリガ最縮小張出におけるジブを装着したままでのブーム作業は行わないでください。
9. 各々の作業状態におけるブーム危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
10. 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表のとおりです。ただし標準フック以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり 15.7kN (1.6tf) を限度としてください。
11. 高速巻下作業は、フックのみを降下するときに使用してください。また急激なレバー操作はさけてください。
12. アウトリガ最縮小張出状態は、H型アウトリガ付機にのみ適用します。
13. クレーン作業は風速 10m/s まで可能ですが、比較的弱い風の場合でも受風面積の大きい荷重を取扱う場合は特別な注意を払ってください。
14. 定格総荷重をこえる作業を行った場合、および正しい使い方を行わなかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。

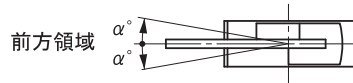
● アウトリガ不使用時

1. 定格総荷重表は、水平堅土上においてタイヤの空気圧が規定圧で、かつサスペンションシリンダーを最縮小にした場合に本機の保証できる最大荷重を示しており、主フックとつり具の質量を含んだ値です。

□部分 は機械の強度によって、他は機体の安定度によって定められています。

【タイヤ規定空気圧：875kPa (8.75kgf/cm²)】

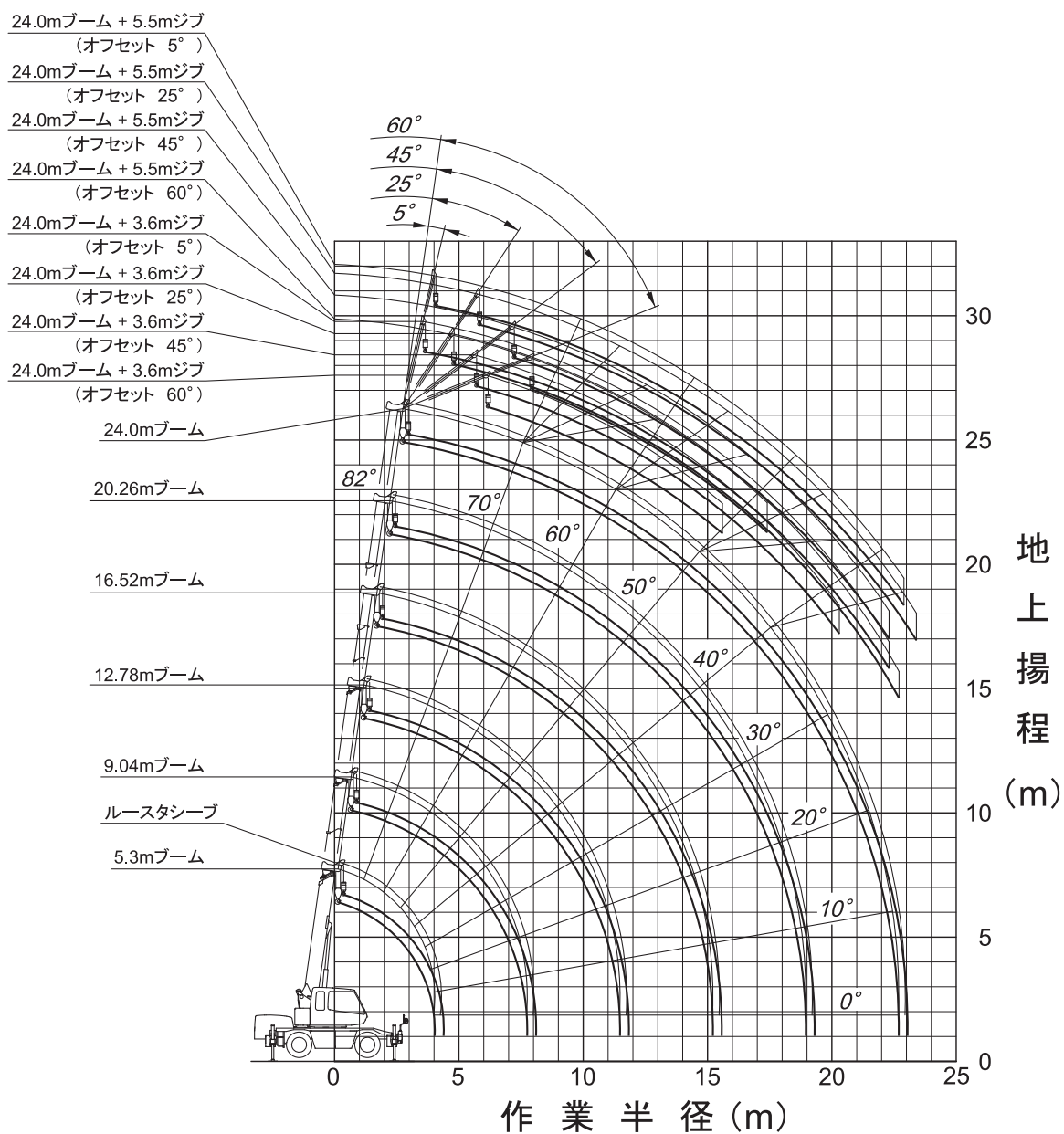
2. 作業半径はブームのたわみを含んだ実際の値にもとづいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
3. 前方性能と全周性能とでは定格総荷重が異なります。前方領域から側方領域へ旋回する場合には過荷重になるおそれがありますので充分注意してください。



クレーン作業 領域 α°	定置つり	走行つり
	1	1

4. ルースターシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりブームに取り付けられているフックその他のつり具の質量を差引いた値とし、かつ限度を 1,800kg とします。
【ルースターシーブ使用フック：1.8t フック (質量25kg) 巻掛本数1】
5. ブーム長さ 12.78m をこえるブーム作業およびジブ作業は行わないでください。
6. 定置つり作業はパーキングブレーキを効かせ、同時にブレーキロックを掛けた状態で行ってください。
7. 走行つりはシフトレバーを1速にして行ってください。
8. 走行つりは荷が振れないように地面近くに保持し、2km/h 未満にて行ってください。
特にコーナリング、急発進、急制動に注意してください。
9. 走行つり中にはクレーン作業は行わないでください。また旋回ブレーキを必ず掛けてください。
10. ブーム長さおよび作業半径が規定の値をこえる場合にはその規定の値と、次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重を目安として作業を行ってください。
11. 各々の作業状態に於ける危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
12. 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表のとおりです。ただし標準フック以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり 15.7kN(1.6tf) を限度としてください。
13. 高速巻下作業は、フックのみを降下するときに使用してください。また急激なレバー操作はさけてください。
14. クレーン作業は風速 10m/s まで可能ですが、比較的弱い風の場合でも受風面積の大きい荷重を取扱う場合は特別な注意を払ってください。
15. 定格総荷重をこえる作業を行った場合、および正しい使い方を行わなかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。

■作業範囲図

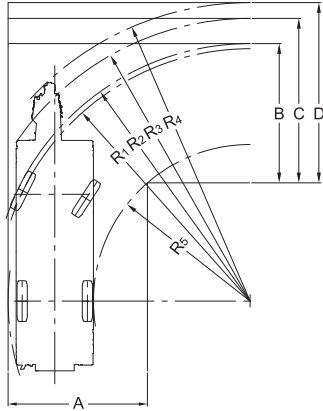


(注 意)

- 1) 本図はブーム、ジブのたわみを含んでいません。
- 2) 本図はアウトリガ最大張出(全周)のものです。

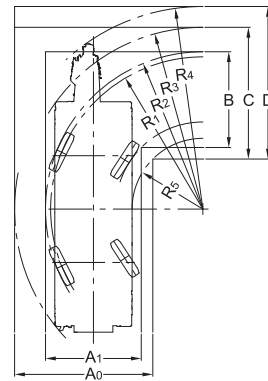
■最小直角通路幅

●2輪ステアリングで右折する場合



- ・ $R_1=6.50\text{m}$
(最小回転半径)
- ・ $R_2=6.64\text{m}$
(最外輪端回転半径)
- ・ $R_3=7.28\text{m}$
(車体回転半径)
- ・ $R_4=7.69\text{m}$
(ブーム先端回転半径)
- ・ $R_5=4.03\text{m}$
(車体内側半径)
- ・ $A=3.59\text{m}$ (入口通路幅)
- ・ $B=3.59\text{m}$ (車輪出口通路幅)
- ・ $C=4.24\text{m}$ (車体出口通路幅)
- ・ $D=4.65\text{m}$ (ブーム先端出口通路幅)

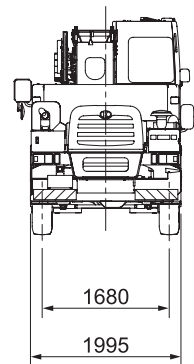
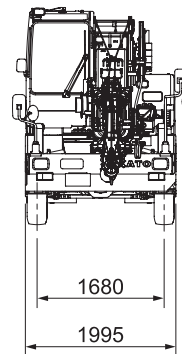
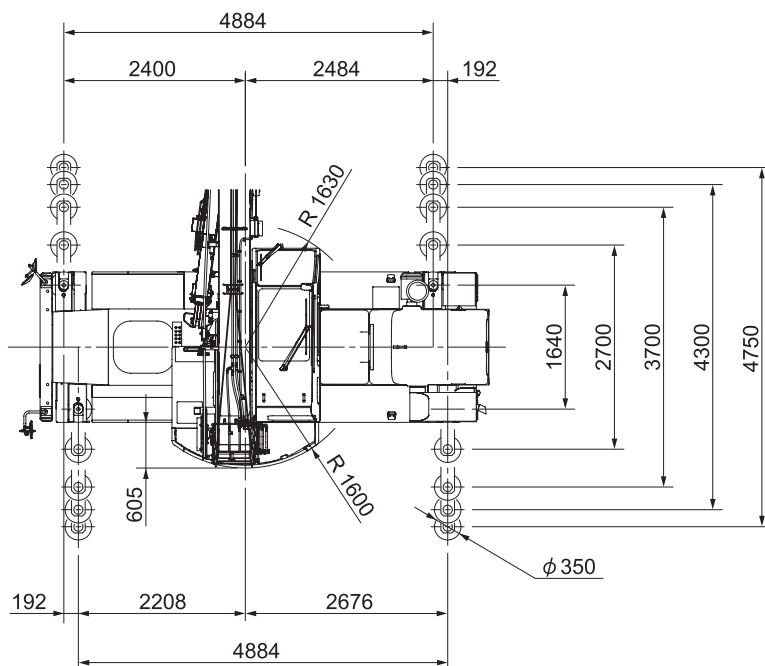
●4輪ステアリングで右折する場合



- ・ $R_1=3.92\text{m}$
(最小回転半径)
- ・ $R_2=4.06\text{m}$
(最外輪端回転半径)
- ・ $R_3=4.68\text{m}$
(車体回転半径)
- ・ $R_4=5.22\text{m}$
(ブーム先端回転半径)
- ・ $R_5=1.82\text{m}$
(車体内側半径)
- ・ $A_0=3.56\text{m}$ (車体入口通路幅)
- ・ $A_1=2.47\text{m}$ (車輪入口通路幅)
- ・ $B=2.47\text{m}$ (車輪出口通路幅)
- ・ $C=3.40\text{m}$ (車体出口通路幅)
- ・ $D=3.93\text{m}$ (ブーム先端出口通路幅)

(注) 上記の数値は計算値です

■全体図



縮尺: $\frac{1}{100}$ 単位 (mm)



お問い合わせは…

KATO 株式会社 加藤製作所

本 社／☎140-0011 東京都品川区東大井1丁目9番37号
☎03 (3458) 1111番 (大代表)
ホームページアドレス <http://www.kato-works.co.jp>

C02561
10.2008-5000 (TI) 1

BUREAU VERITAS
Certification

UKAS
QUALITY
MANAGEMENT

000



品質保証の国際規格「ISO 9001」の認証を取得しています。